

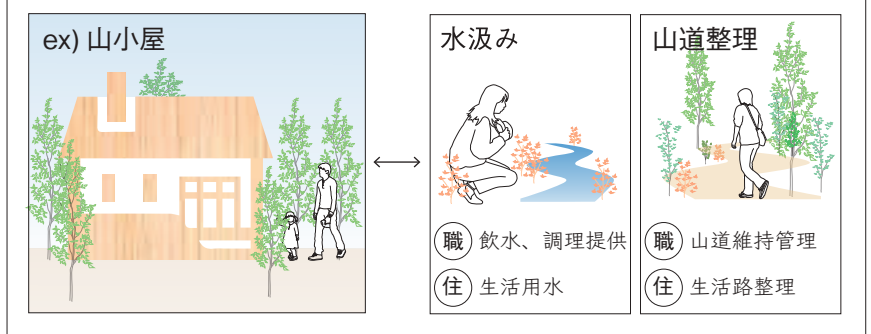


ずれから生まれる協奏ライフ

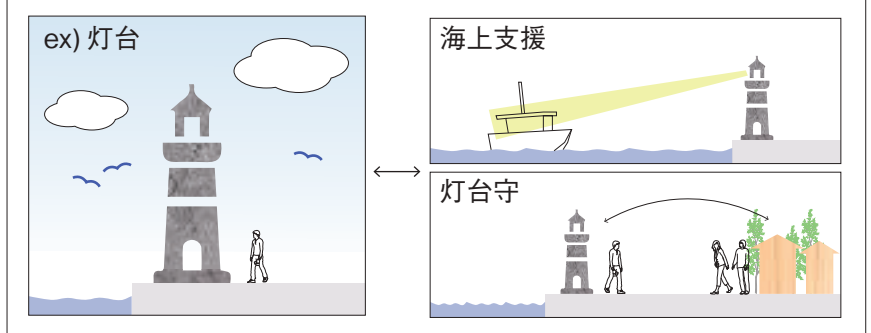
- モノの有人化により生活行為が職にもなるライフスタイルと住空間 -

モノの有人化を手がかりにした職住一体のかたち

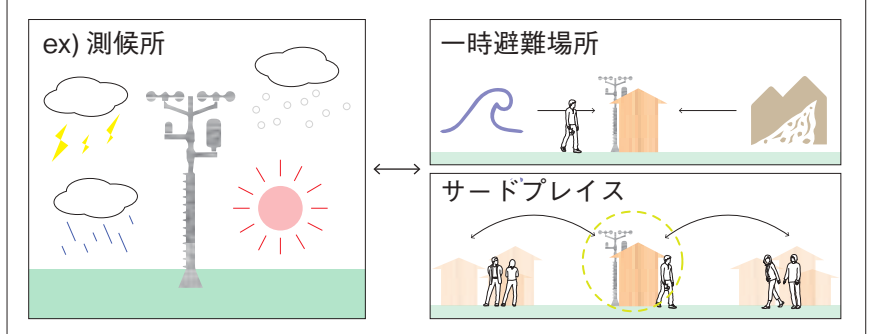
【生活様式】 住と職の行為がとてども曖昧でそこで生活していることが職住の両方にアプローチしている。



【建築】 建築自体が職の道具や機械になり得ることで形態と職住が密接である。また有人であるからその業務も出てくる。

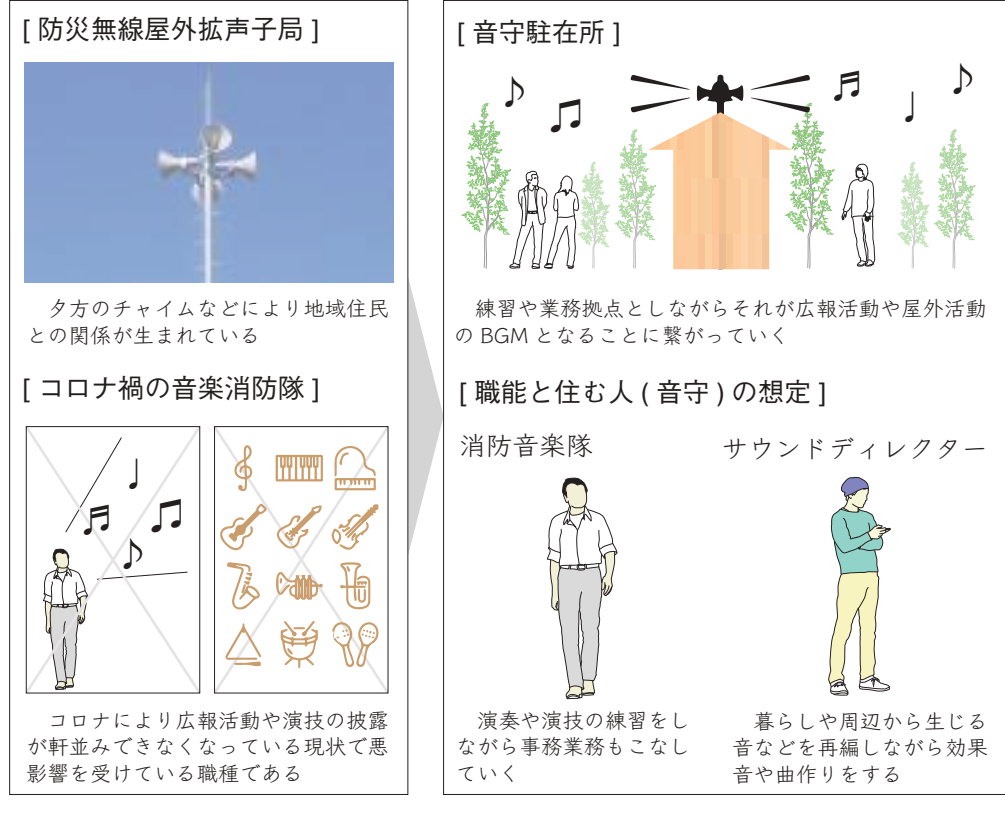


【地域との関係性】 有人であるからこそ一次避難場所やサードプレイスとして地域との関係性が生まれている。

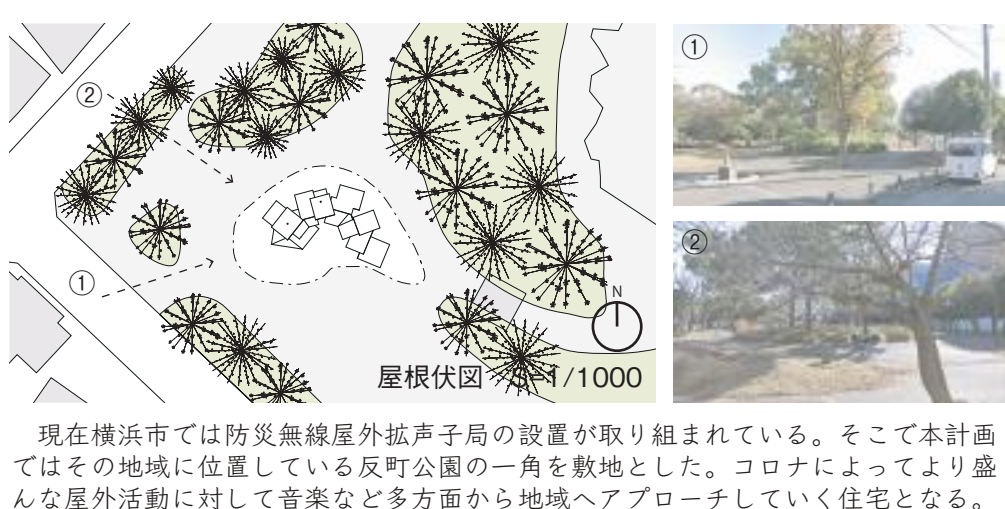


→以上3つのことを踏まえ有人化を手がかりとした職住一体の暮らしと住空間を提案する

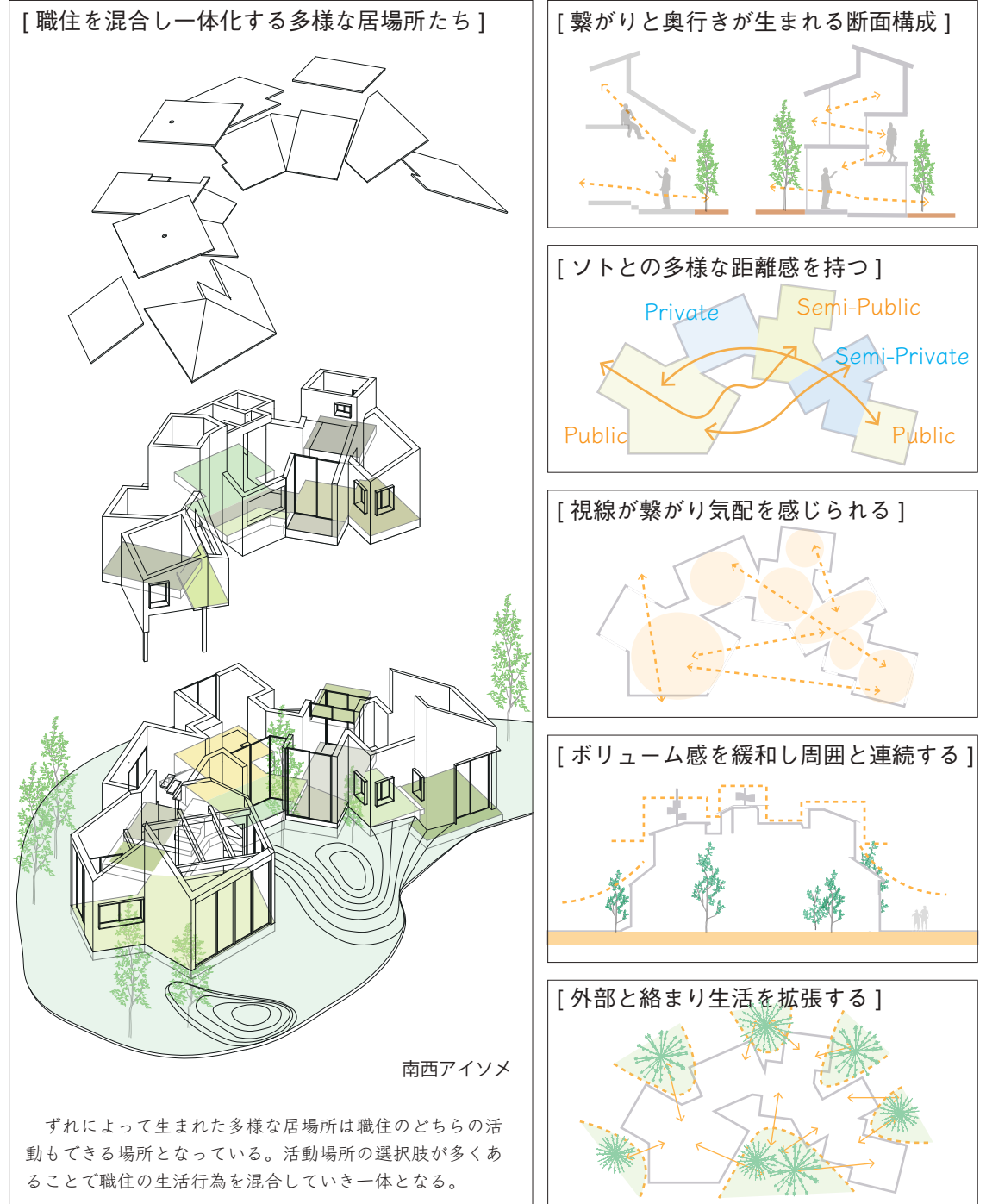
コロナ禍と有人化対象



対象敷地

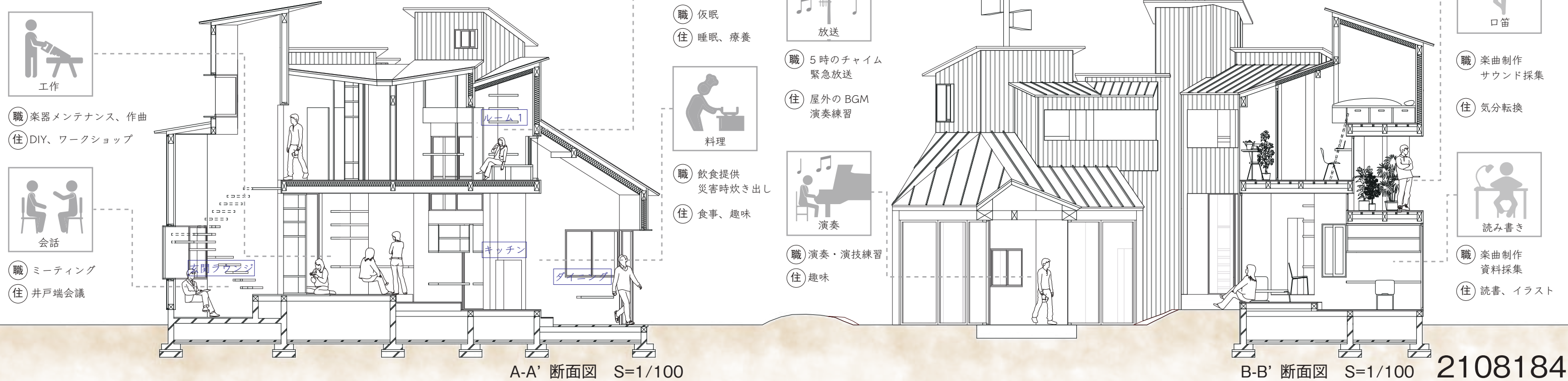


ダイアグラム ずれがつくる空間多様性



職にも住にもなる生活行為による暮らし

住のためにしている行為が職へ繋がっていたり、職のための行為が住を彩る要素になっていたりする職のための住のためでもある生活行為により職住一体の暮らしが形成される。





ダイニングから玄関ラウンジを見た様子。すれによって様々な活動が一つの筋となり、奥行きや愉しさが出てくる空間構成となっている。



ルーム2から中庭を見た様子。家の中の活動からパブリックな活動まで連続していく。



北側から建築を見た様子。家の中から活動は溢れ出し外部が他者との中間領域となる。

機材を扱った作業やアナウンス業務などを行う

プライベートな屋外空間で静かに音を奏でられる



G.L+4500 平面図 S=1/100

G.L+6300 平面図 S=1/100

楽器にできる植栽

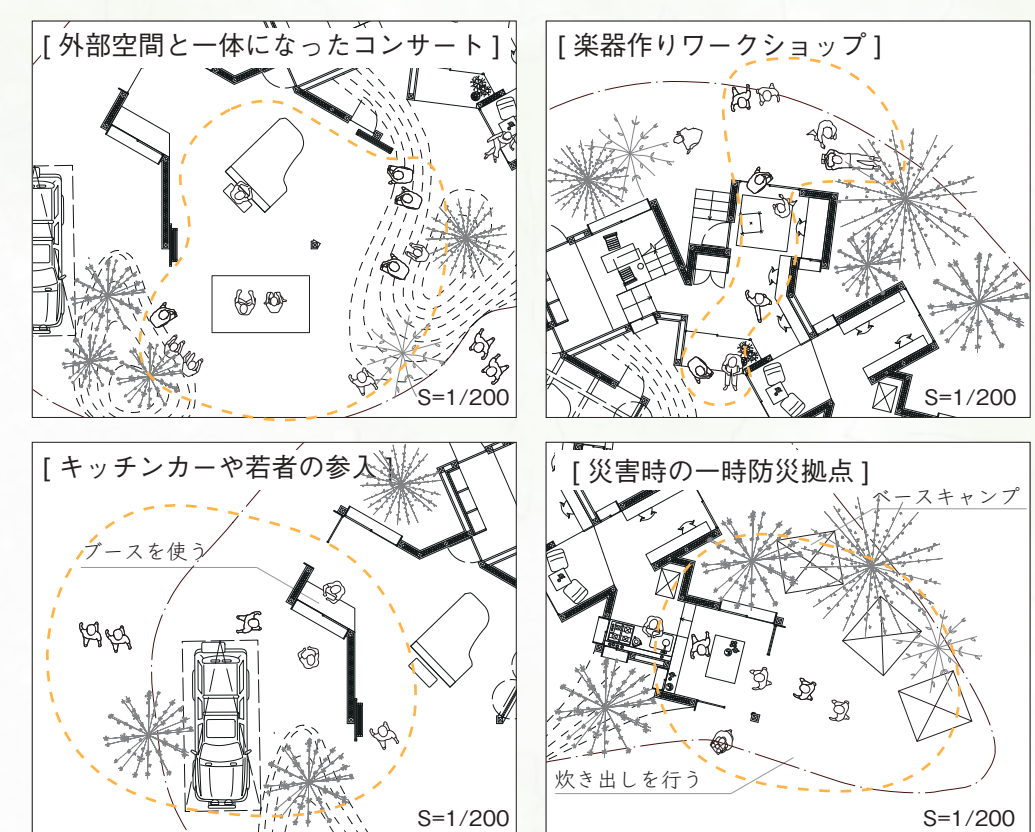


草笛や打楽器の制作を行い近所の子どもたちが遊びに来たり、新しい楽曲やサウンドを作るような活用がされる。

面積表

敷地面積	280.897 m ²	1F	67.7 m ²	2F	37.9 m ²	3F	4 m ²
建築面積	87 m ²						
建蔽率	30%						
延床面積	106 m ²						
容積率	37.7%						

地域と多様な関係性を築く音守駐在所



配置図兼 G.L+1600 平面図 S=1/100

周辺と絡み新たなサウンドスケープを作る建築へ

周辺環境と絡みこでの生活音までもが新たなサウンドスケープを作り出す建築へと変化していく。また、コロナ禍でより活発となった屋外利用により愉しくする空間となる。



南側立面図 S=1/100